

ランチョンセミナー

■ 2026年10月18日(日) 11:50 ~ 12:50 | Ⅲ 第5会場

■ [LS2-5] ランチョンセミナー 2-5

座長:初鹿 妙子(株式会社M C C マネジメント 執行役員 ウエルネス事業推進本部 調剤事業部長 兼 管理本部 専門人材育成担当)

共催:沢井製薬株式会社

[LS2-5] 高齢者糖尿病の特徴と治療

大野 恭裕 (和泉市立総合医療センター 特別顧問／内分泌・糖尿病内科部長)

ランチョンセミナー

2026年10月18日(日) 11:50 ~ 12:50 | 第5会場

[LS2-5] ランチョンセミナー 2-5

座長: 初鹿 妙子(株式会社MCCマネジメント 執行役員 ウエルネス事業推進本部 調剤事業部長 兼 管理本部 専門人材育成担当)
共催: 沢井製薬株式会社

[LS2-5] 高齢者糖尿病の特徴と治療

大野 恭裕 (和泉市立総合医療センター 特別顧問／内分泌・糖尿病内科部長)



糖尿病は加齢に伴い罹患率が高くなることが知られており、日常診療において糖尿病患者は高齢者が多くなっています。高齢者ではサルコペニア、フレイル、認知機能障害など若い人には見られない問題があり、個人差も大きくなってきます。糖尿病治療においても高齢者糖尿病は注意すべき点があるため、日本老年医学会・日本糖尿病学会から「高齢者糖尿病診療ガイドライン」が発表されています。65歳以上の糖尿病患者を高齢者糖尿病として、日常生活動作(ADL)、認知機能によりカテゴリー分類されており、それぞれのカテゴリーに適した治療目標が示されています。低血糖についても高齢者では典型的な症状が現れないことがあり、全国調査で重症低血糖は高齢糖尿病患者に多いことが報告されています。食事療法については標準体重を目標とするのではなく、個々の患者さんに適した目標を設定して栄養指導を行う必要があります。

高齢者では悪性腫瘍、高血圧、腎障害、心不全など多くの併存疾患を有する場合があります、それに伴いポリファーマシーの問題も生じてきます。

現在、糖尿病治療薬は従来の糖尿病治療薬に加え、SGLT-2阻害薬、GLP-1RA, GIP/GLP-1 dual agonistなど様々な新規薬剤が使用可能となっていますが、それぞれの薬剤の特徴を把握し個々の高齢糖尿病患者へ適切な処方と指導が必要になっています。薬物治療に関しては日本糖尿病学会から2型糖尿病の薬物療法のアルゴリズムが示されており治療薬剤を決める指針となっています。

薬局、薬剤師の先生方においても糖尿病は調剤後薬剤管理指導の対象となっており、医薬連携には高齢者糖尿病治療に対する治療法、留意点などを共有する必要があると考えられます。

特に糖尿病患者の多くを占める高齢者糖尿病に対する治療につきまして、薬局・薬剤師の先生方と考えたいと思います。

【略歴】

1981年 3月 近畿大学医学部卒業
1981年 6月 近畿大学医学部第二内科入局（研修医）
1983年 3月 同上 研修終了
1983年 4月 近畿大学大学院医学研究科内科学系 入学
1987年 3月 同上 修了（医学博士）
1987年 4月 近畿大学医学部第二内科 助手
1991年 4月 同上 病院講師
1992年 8月 米国ペンシルベニア大学 研究員（留学）
1993年10月 米国ハーバード大学/マサチューセッツ総合病院 研究員（留学）
1994年 8月 近畿大学医学部第二内科 講師
1999年 4月 同上 助教授
2002年 4月 近畿大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科 助教授(科名変更)
2007年 4月 同上 准教授（職名変更）

2009年 4月 近畿大学医学部堺病院 内分泌・代謝・糖尿病内科 教授

2018年 4月 同上 内分泌・代謝・糖尿病内科（地域医療連携学総合講座）教授
和泉市立総合医療センター 副院長を併任

2023年 4月 和泉市立総合医療センター 特別顧問／内分泌・糖尿病内科部長
近畿大学医学部非常勤講師